



RAKUWA
lecture of health

第47回 らくわ健康教室

2011年4月1日



医療と介護の橋渡し

～ 医療福祉相談員の仕事 ～

洛和会丸太町病院

医療介護サービスセンター 係長 社会福祉士 青木 哲幹

あおき てつ 幹



子どもたちのために、未来へ…

洛和会ヘルスケアシステム*

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院

医療と介護の橋渡し ～ 医療福祉相談員の仕事 ～

医療福祉相談員は一般にはあまり知られておらず、ケアマネジャーと混同されることもあります。ケアマネジャーが介護保険分野に特化した専門職であるのに対し、医療福祉相談員は介護のみならず、社会福祉全般の問題を対象とします。患者さまの医療費や生活費、入院中や退院後の生活全般にわたって相談を受ける“頼れる”存在です。一般病棟など4病棟170床がある洛和会丸太町病院には、医療福祉相談員が3人体制で配置されています。

さまざまな病棟

病棟にはさまざまな区分があり、果たすべき役割も異なるため、各々の病院で医療福祉相談員の業務内容も異なってきます。

一般病棟

急な病気やけが、慢性的な病気が悪化してきたときなど、集中的な治療やケアを行うところ。

一般病棟では、看護師の配置によって入院期間が制限されることがあります。



障害者病棟

肢体不自由、脊髄損傷などの重度障害者、重度の意識障害者など、重度の障害がある人に対して必要な治療が行われます。対象患者の状態から看護配置が手厚くされ、在院日数には制限がありません。



回復期リハビリテーション病棟

- 病気やけがの発症早期から、歩行や排泄など日常生活で行う動作（ADL）の向上と社会復帰を目的とした集中的なリハビリが行われます。
- 医師の指導のもと、専従の理学療法士、作業療法士、言語療法士などの充実した体制で訓練が行われます。
- 疾患によって入院の上限期間が定められています。





療養病棟

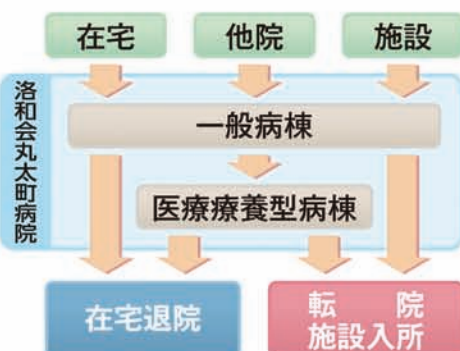
急性期の治療が終了し、病状は安定しているものの、引き続き医師による医学的管理や処置などの必要性が高い人に医療と看護が提供されます。

※患者区分という考え方が導入されており、身体機能(歩ける人・介護が必要な人・寝たきりの人)の3区分と、病状・状態の医療区分(末期がんの人、感染症の治療中、24時間点滴…など)で分けられます。

洛和会丸太町病院では

洛和会丸太町病院の医療福祉相談員は、退院後、在宅療養される方に退院後の相談窓口を紹介することや、転院される方、施設に入所される方への調整などを行っています。

洛和会丸太町病院での患者さま援助



私たち医療相談員の具体的な相談内容

- 医療費や生活費が心配。
 - ▶ 適切な社会福祉制度の情報提供や連絡調整などを行います。
- 病気や療養について悩んでいる。
 - ▶ 医師や看護師、各疾病のサポート団体や相談窓口を紹介するなど、さまざまな援助をします。
- 入院時の療養、家族、仕事、生活面での不安や問題。
 - ▶ 医師や看護師だけでなく、ご家族や職場の上司への相談調整などを行います。
- 退院といわれたが、生活できるか不安。
 - ▶ 介護保険などの情報提供をし、社会福祉制度の活用、地域との密接な連携で、安心してスムーズに退院できるようにします。

ある日の相談員の1日



8:30 出社

夜間帯の入院患者さまの情報収集や各担当病棟の患者さまの状態確認を電子カルテで行います。

9:30~ 病棟まわり

医師や看護師と情報交換。

10:30~ 個別面談

13:30~ 医師の病状説明に同席

15:00~ 病棟カンファレンス

16:00～ 訪 床

入院・退院で不安を生じている
かもしれない患者さま、一人ひとりに声かけをしてまいります。

たとえばこんな解決を行いました

《退院を踏まえたカンファレンスのケースより》

ケース①

【Aさん】

- 76歳 女性
- 長男夫婦と同居。
日中は揃って仕事で不在。
- 入院前は杖でなんとか買い物に出
ていた。
- 人工骨頭置換術を受けられた。
- リハビリテーションによって歩行
器歩行で外出できるまでに回復。



参加者

ご本人
長男
ケアマネジャー
医療福祉相談員

具体的な検討

- 自宅トイレが和式だが、借家で、改修工事
までは難しい。

▶ かぶせ便器を退院までに手配しました。

- 買い物は自分で行きたい。

▶ 体にあった歩行器の
レンタルを。

- 外に出て体を動かす機
会が減りそう。

▶ 退院後に体験利用か
らデイケアに参加。


ケース②

【Bさん】

- 88歳 男性
- 妻と二人暮らし。
- 現在、嚥下が困難なため、経管栄
養。寝返りなど介助が必要。痰の
吸引も必要。

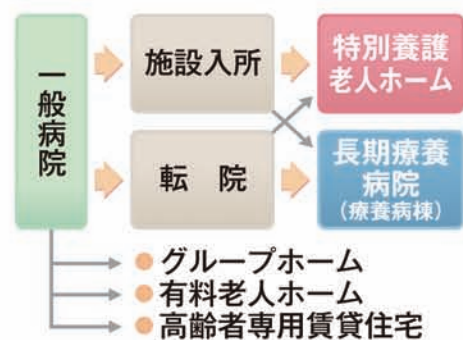


参加者

妻
長男
医療福祉相談員

具体的な検討

Bさんのケースでは、経管栄養や痰の吸引
といった医療行為が頻回に必要であることか
ら、施設での対応は困難と思われ、療養病棟
への転院を勧めることになりました。



終わりに

医療福祉相談員は、患者さまが不安なく退
院してもらえるよう業務に当たっています。

- チーム医療・チームアプローチを重視しています。
- 患者さまが不安を感じないよう「先手必勝」
を心掛けて、早め早めに手を打っています。
- 入院の際には、ぜひ声を掛けてください。